

# TV ドラマの翻訳と翻案に見ることばと文化の移し替え

## —英語の台詞から日本語字幕, リメイク版日本語台詞へ—

保坂敏子(日本大学) 島田めぐみ(日本大学)

### 1. 研究の背景と目的

様々な国で制作された映画や TV ドラマ, アニメなどの映像作品は, 「翻訳」あるいは「翻案」という形で, 時代や国境を越えて流通している。「翻訳」とは, ある言語で書かれた原文のテキストを異なる言語に移し替える行為のことである。映像作品は, 字幕や吹替の翻訳が付けられることにより, セリフの言葉が理解できなくても, 作品を視聴することが可能になる。一方, 「翻案」とは, 使用言語が異なるかどうかに関わらず, オリジナルの作品の設定や物語を前提に, 異なるテキストに改変し (花方 2015), 新たな作品を作り出す行為である。具体的には, 同じメディア間で, 古い時代の作品を現代社会に合わせて作り変えたり, 他国の作品を自分の国にローカライズしたりしてリメイク作品を作ること, ならびに, 小説を映画化したり, 舞台化したりといったメディア間で翻訳することを指す。例えば, 黒澤明監督の『七人の侍』(1954) は, 各国語版に翻訳され, 字幕翻訳付き作品が時代を超えて今でも海外で親しまれている。この作品は, 1960 年にアメリカで『荒野の七人』という西部劇にリメイクされ, 日本でも公開された。近年では, 新海誠監督のアニメ映画『君の名は。』(2016) が世界 135 か国で字幕付きで公開され, 人気を集めた。この作品は, 2017 年にはハリウッドで実写版としてリメイクされることが決定していたが, 2020 年に監督が決まり, リメイク版の作成が始まる予定である。このように, グローバル化の進んだ多言語・多文化状況の中で, 「翻訳」と「翻案」はことばと文化の違いを超えた文化の伝達と交流に大きな役割を果たしている。それは日本の映像作品に限った現象ではない。日本でも, アメリカや韓国など海外の映像作品を字幕翻訳付きで視聴できる機会が多い。また, 海外の映像作品が日本でリメイクされ注目を浴びることも少なくない。では, 映像作品が「ことばと文化」の壁を乗り越えて受容されるときに, オリジナルの原文テキストは「翻訳」や「翻案」によりどのように変容しているのだろうか。

翻訳戦略は, 起点文化をそのまま残すか, 目標文化に合わせて改変するかで「異化翻訳 (foreignization)」と「同化翻訳 (domestication)」の 2 つに大きく分けられる。映像作品の字幕翻訳は, 視聴者への分かりやすさが重視され, 「同化翻訳」が用いられることが多い。「同化翻訳」とは, 原文のテキストを目標テキストのことばや文化に同化させるマクロレベルの戦略のことで, 起点のセリフを目標文化に同化させるために, 個々の語の意味よりも発話の全体的なコミュニケーション上の意図を優先し, 元の発話の削除, 凝縮, 改変といったミクロレベルの翻訳戦略が使用される (ベーカー&サルダーニャ編 藤濤監訳 2013)。一方, 舞台を別の国や別の時代に置き換えて翻案するリメイク作品においては, 背景の変化に伴い, 内容がローカライズされ, 設定や物語の筋も改変されることがある。「翻訳」や「翻案」により原作のことばや文化はどのように変容しているのかを明らかにすることは, 現代社会の文化の流動性について考えるために意義のあることと思われる。そこで, 本研究では, 米国製の英語の TV ドラマ作品の日本語字幕翻訳, ならびに, 日本向けに翻案されたリメイク版 TV ドラマを取り上げ, オリジナルの英語の台詞と日本語の字幕翻訳, リメイク版の日本語の台詞を対象にテキストマイニングによる分析を行い, その結果を比較する。映像作品の英語の台詞と日本語の字幕翻訳について分析・比較した研究はあるが (篠原 2013, 他), 翻訳だけでなく翻案の日本語台詞と一緒に比較した研究は, 管見の限り見当たらない。本研究は, 字幕翻訳とリメイク版への翻案において, 原文の英語のことばと文化はどのように変容するのか, また, 翻訳と翻案の日本語にはどのような共通点や相違点があるのかを明らかにすることを目的とする。

## 2. 研究の方法

### 2.1 分析の対象作品

本研究の分析の対象は、2009年～2016年の間に米国で放映されたTVドラマ『The Good Wife』（CBS 2009～2016）と、その翻案作品である2019年にTBSで放映されたリメイク版『グッドワイフ』である。それぞれ、第1話について、DVDに収録されていた資料から以下の3つの資料を作成し、分析を実施した。

- ① 『The Good Wife』 英語の台詞の文字化資料
- ② 『The Good Wife』 日本語の字幕翻訳の文字化資料
- ③ 『グッドワイフ』 日本語の台詞の文字化資料

『The Good Wife』は、ロースクールを首席で卒業して2年間弁護士で活躍した後、長年家庭を守ってきた女性を主人公とするリーガル・ドラマである。州検事の夫が逮捕されたために、13年ぶりに専業主婦から弁護士に復帰し、法廷に立ちながら様々な困難に立ち向かっていくというストーリー設定になっている。法廷ドラマではあるが、女性の外的キャリア（職業・地位・資格・年収）と内的キャリア（働きがい・生きがい）形成のプロセスが感じられる内容になっている。本作品は、ゴールデングローブ賞、エミー賞で主演女優賞を獲得し、エミー賞の作品賞にも2回ノミネートされた後、日本、韓国、ロシアの3か国でリメイクされるなど、一定の評価を得ている。日本のリメイク版『グッドワイフ』は、登場人物やストーリーの設定はそのままで、舞台をアメリカから日本に移し替えたものである。大きな改変点としては、裁判で扱う事件などが日本の社会状況に合ったものに移し替えられていることがあげられる。例えば、本研究で取り上げる第1話において法廷で取り扱う案件は、原作では、主人公は夫の殺人容疑をかけられている女性に対するプロボノ案件である。しかし、日本のリメイク版ではインターネットの報道の仕方に対する名誉棄損に関する案件を扱っており、内容は大きく異なる。ただ、違う文脈の中ではあるものの、英語の台詞と同じ内容の台詞を使用している場面も少なくなかった。

### 2.2 分析の方法

英語版DVDに収録されている英語の台詞と日本語の字幕資料、ならびに、日本リメイク版の日本語の台詞の文字化資料の3種類の資料を作成し、KH Coderを用いてテキストマイニングを行った。分析は、①「語彙の出現頻度」の分析と、②「登場人物ごとの抽出語による対応分析」の2種類を行った。①は、語彙の出現頻度から変容の全体像を検証するため、また、②は、主要な登場人物の関係性に変容があるかを明らかにするためである。日本語の分析項目は内容語を中心に動詞、名詞、形容詞、形容動詞、副詞、感動詞、を取り上げた。英語の分析の枠組では、日本語の項目に人称代名詞を別立として加えた。

## 3. 分析の結果と考察

### 3.1 語彙の出現頻度

語彙の出現頻度から変容の全体像を検証するため、『The Good Wife』の英語の台詞と日本語の字幕資料、リメイク版『グッドワイフ』の日本語の台詞に対してテキストマイニングを適用した。分析の結果、抽出された語彙は、『The Good Wife』の英語台詞4,351語と日本語字幕資料2,241語、『グッドワイフ』の日本語台詞4,207語であった。それぞれのデータについて語彙の出頻度順に並べ、上位20語を取り出した。語彙を出現頻度順に並べた結果は表1、表2、表3のとおりである。

3つの資料に共通して多かったのは、呼称に用いられる自称詞「私」と対称詞「あなた」、主人公の苗字、敬称「Mrs.」「～さん」であった。日本語の字幕では「私」のほか「僕」や「彼女」、主人公の名前が出てきたが、リメイク版日本語台詞ではいずれも20位には入っていなかった。敬称については、英語台詞は「Mrs.」、日本語字幕とリメイク版日本語台詞では「さん」が入っていたが、リメイク版日

本語台詞には性別に関係なく弁護士を呼ぶときの敬称としての「先生」があった。日本語字幕とリメイク版日本語台詞を比べると、日本語字幕では、英語の人称代名詞の直訳があり、男女の差を区別しているが、日本語字幕とリメイク版日本語台詞にはそれが見られなかった。

表1 英語台詞の語彙

	抽出語	出現回数
1	be	339
2	you	249
3	I	231
4	it	116
5	do	103
	not	103
7	he	68
8	we	67
9	have	60
10	she	56
11	what	52
12	they	47
13	just	35
14	get	32
15	think	31
16	my	28
17	Mrs	27
	see	27
19	Florrick	25
20	say	24
	so	24

表2 日本語字幕の語彙

	抽出語	出現回数
1	私	30
2	さん	26
3	事件	24
4	証拠	22
5	あなた	17
	見る	17
7	フロリック	16
8	言う	15
9	はい	14
10	ええ	12
	異議	12
12	アリシア	11
	映像	11
	出る	11
	認める	11
	弁護	11
17	トラック	10
	検事	10
	陪審	10
	彼女	10
	僕	10

表3 リメイク版の日本語台詞の語彙

	抽出語	出現回数
1	さん	68
2	日下部	49
3	私	48
4	蓮見	43
5	情報	40
6	あなた	37
7	はい	33
8	弁護士	28
9	その	27
10	警察	26
11	先生	25
12	番組	23
13	この	22
	言う	22
15	今	21
	発言	21
17	いや	19
	裁判	19
	子供	19
	多田	19
	聞く	19

### 3.2 登場人物ごとの抽出語による対応分析

主人公をめぐる主要な人物6名を対象に対応分析を試みたところ、英語の台詞では職場での上司と部下といった上下関係が見て取れたが（図1）、日本語字幕翻訳では、各人物はそれぞれ独立しており、関係が分からなかった（図2）。リメイク版の日本語台詞については、同じ職場か否かがはっきりと区別されていたが、上下関係は曖昧であった（図3）。また、主人公の女性については、プライベートな生活の言葉が多く、リメイク版はオリジナルと比べ、主人公の職業人的な側面（外的キャリア）より、家庭人としての側面（内的キャリア）に重点が置かれていることがうかがえた。

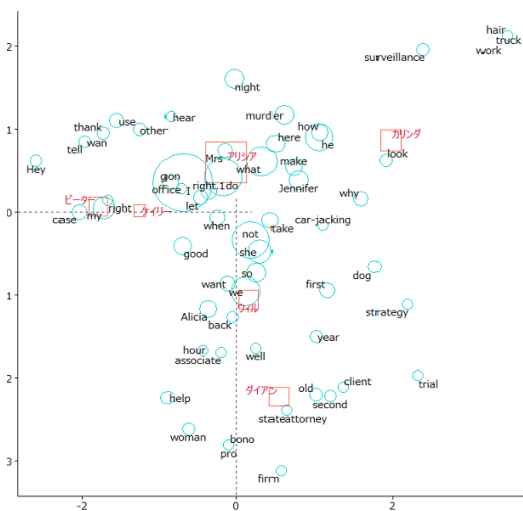


図1 英語台詞の登場人物の対応分析

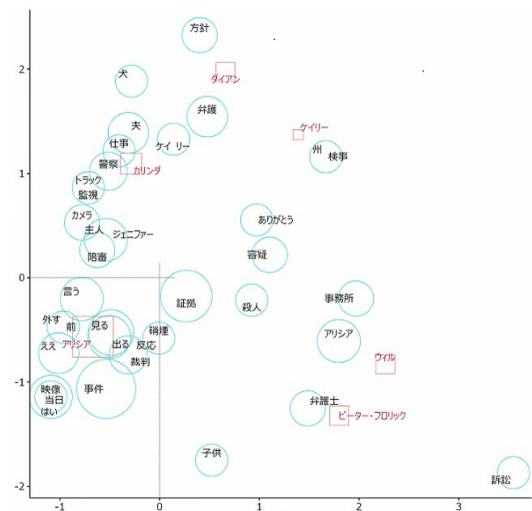


図2 日本語字幕翻訳の登場人物の対応分析

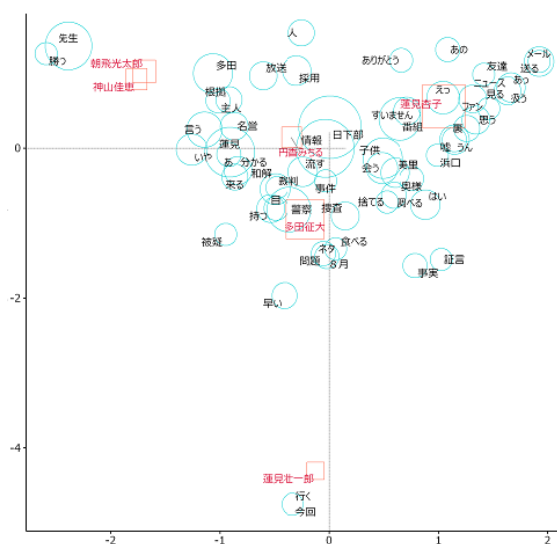


図3 日本語リメイク版の登場人物の対応分析

#### 4. おわりに

以上、語彙の出現頻度の結果からは、3つの資料のいずれにおいても呼称がよく使われる点が共通していることが分かった。ただ、その使われ方は3者3様であった。英語の台詞では、日本語の話し言葉では一般的にはあまり使われない三人称を含む人称代名詞が多く使われていた。この三人称は、日本語の字幕翻訳には高い頻度で出現していたが、リメイク版の日本語台詞には出現しなかった。このことから、日本語の字幕翻訳は、「同化翻訳」だけではなく、目標文化にそぐわないような「異化翻訳」も行われていることがうかがえる。一方、リメイク版の翻案の日本語台詞では、弁護士になった主人公を「～先生」と性別にかかわらない弁護士の呼称の仕方と呼ぶことが多かった。英語の原文では、名前を呼び捨てにしていたところである。これは、目標文化の人々に弁護士として主人公が受け入れられたことが分かるような改変だといえる。対応分析では、英語の台詞では、上下がはっきり読み取れたが、それは、日本語の字幕やリメイク版の日本語台詞で分からなくなってしまうこと、また、リメイク版の日本語の台詞では、主人公の個人的な側面が強くて出てくるといった違いがあることが分かった。本研究は、字幕翻訳とリメイク版の翻案における「ことばと文化」の扱い方の一端を示すことができたものと思われる。

**謝辞** 本研究はJSPS 科学研究費・基盤(C)17K02867の助成を受けたものである。

#### 参考文献

- 篠原有子 (2013). 映画『おくりびと』の英語字幕における異文化要素(日本的有標性)の翻訳方略に関する考察 翻訳研究への招待, 9, 81-97
- 花方寿行 (2015). 原作・映画・リメイクをめぐる「倫理的」問題の複雑さ—映画『他人の家』と『折れた槍』, リベラリズムの見解とあかがりをめぐって— 翻訳の文化/文化の翻訳, 10 巻別冊, 静岡大学人文社会科学部翻訳文化研究会, 91-119
- ベイカー, M. & サルダーニャ, G. (編) 藤濤文子監訳 (2013). 翻訳研究のキーワード 研究社